

# 中国における北朝鮮関連資料

儀崎敦仁

(慶應義塾大学)

筆者は1993年から94年、2001年から04年と延べ4年間に亘り中国に滞在したが、結論的に言ってさほど北朝鮮関連資料を得られる場所ではなかった。少なくとも中朝両国の蜜月期、同盟関係から推察される予見は葬り去らなくてはならない。

## 1. 全体像の把握

中国における朝鮮半島研究の動向については、朴鍵一・馬軍偉編『中国対朝鮮半島の研究』（北京、民族出版社、2006年）で整理されている<sup>(1)</sup>。地方別に構成され、どの地域にどのような研究機関があり、どのような成果が出ているかがよく分かる。その画期的な活動を評価したいが、北京大学朝鮮文化研究所が抜けている等、必ずしも網羅的ではない。そもそもの着想は『現代韓国朝鮮研究』創刊号の「特集 現代韓国朝鮮学の現状と課題」から示唆を得たと仄聞している。

中国における資料収集の方法については鄭在浩『중국정치연구론: 영역, 쟁점, 방법 및 교류』(서울, 나남, 2000년) [『中国政治研究論: 領域・争点・方法および交流』ソウル、ナナム、2000年]が参考になる。新刊書を扱うのが「新華書店」で、古書専門店が「中国書店」であるといった基礎的事項を把握するのに有用である。また、やや年度が古いが、崔蓮・金順子編『中国朝鮮学韓国学研究文献目録』（北京、中央民族大学出版社、1995年）では、中国における朝鮮半島関連書の出版状況が整理されている。

中国で刊行された書籍の検索、購入については、中国版アマゾン (amazon.cn) の利用が抜きん出て便利である。中国国内に住所がないと注文できないという難点は残されているものの、北京の西単図書大厦や上海の上海書城といった大型書店で

見当たらない書籍も購入可能である。また、中国では『人民日報』、『解放軍報』等のデータベースも充実しており、検索機能が便利である。

## 2. 2つの図書館

北朝鮮で公刊され、国外帯出が認められている一般書籍については、中国国家図書館 (<http://www.nlc.gov.cn/>) に数多く所蔵されているが、閉架式のためやや不便ではある。複数の朝鮮族職員を擁しているが、北朝鮮書籍の整理は必ずしも十分に行われておらず、所蔵数も「不明」という。

大学図書館で群を抜いているのは延辺大学図書館 (<http://www.lib.ybu.edu.cn/>) である。北朝鮮書籍が全て開架式で閲覧でき、各新聞もマイクロフィルムではなく原本で保管されていることに利があったが、2003年にソウルの統一部北韓資料センターが開架式に移行したことから存在価値は低下したといわざるをえない。それでもなお、堀田幸裕氏(霞山会)が同館所蔵の1963年2月5日付『民主青年』紙に金正日の写真記事を見出した<sup>(2)</sup>ように、まだまだ活用の余地がある。中国国家図書館や延辺大学図書館では、日韓でバックナンバーが揃っていない北朝鮮雑誌や「集団体操」の教本等、興味深い資料が散見される。

## 3. 外交部档案館

中国におけるアーカイブの中で最も注目されるのは、外交部档案館であろう。2004年1月に開館した後も徐々に資料公開が進み、2008年6月現在、1960年までの文書が公開されている。同館の端末で「朝鮮」を検索すると1,150件ヒットし、そのうち662件が北朝鮮に直接関連する文書

として登録されている。「日本」が1,112件、「米国」が1,251件、「モンゴル」1,060件であることに鑑みれば、中国にとって朝鮮半島問題が敏感だからといって公開文献数が少ないというわけではなさそうである。同館ホームページ (<http://dag.fmprc.gov.cn/chn/>) でも文書タイトルの一部を閲覧することができる。資料は最大で163頁という膨大なものもあるが、中間値は7頁である。公安部、党対外連絡部といった外交部以外の文献も同館で公開されているが、それらは閲覧のみ可能で、複写不可となっている。毛沢東、劉少奇、周恩来、朱徳の談話記録も複写不可である。

文献は、「金日成首相歓迎宴における周恩来総理の講話（草稿）」<sup>(3)</sup>、「金日成首相訪中における接遇計画」<sup>(4)</sup>といった中朝指導者の相互往来におけるサブ・ロジ関連が多い。「北朝鮮党・政府代表団の状況概観」<sup>(5)</sup>は、「空港から宿所への途上において、朴正愛同志は朱徳委員長に『今回の大会は大きな成功である』。宿所到着後にも『大会開催は大変うまくいき、ベトナム労働党中央はよく団結し、ベトナム人民の緊密な団結は党中央の周囲にあり、ホーチミン主席の指導を熱烈に擁護している』と述べた」との記述が全てであり、「極秘」指定の割には得るものが少なく、内容が断片的でそこから全体像を描くのが難しい。アーカイブ利用における共通の困難さかもしれないが、こと同館の資料は断片的な内容が多いと思われる。

新公開文書を利用した代表的な研究として、김경일 (홍면기 옮김) 『중국의 한국전쟁 참전 기원』(서울, 논형, 2005년) 金景一『中国の韓国戦争参戦起源』ソウル、ノニョン、2005年がある。同書は北京大学教授の著書であるが、その内容から中国国内での公刊が困難であるとして韓国で出版された。牛軍(真水康樹訳)『冷戦期中国外交の政策決定』(千倉書房、2007年)は「朝鮮戦争と抗米援朝」に一章を割いている。

また、同館には在外公民の離婚問題や身分証明書発給に関するもの等、領事関連文書も多い。「崔一・駐中北朝鮮大使の心臓病による入院及び治療」<sup>(6)</sup>のように当時の在中国北朝鮮大使館の様子が分かるものや、「北朝鮮留学生・河殷雨の中国における学習関連状況」<sup>(7)</sup>といった個人情報に

関わるものもある。

さらに、筆者が活用の余地ありと考える資料は、「在北朝鮮中国大使館の給料に関する資料」<sup>(8)</sup>、「在北朝鮮中国大使館における給料調整に関する資料」<sup>(9)</sup>といった大使館の財政関連資料である。平壤駐在の大使館が、北朝鮮国内の物価上昇に伴い現地職員の給料もアップさせたい、と北京の外交部に打電した文書である。後者の文献(1959年)は、「最近北朝鮮内閣が肉類、野菜等の食料品物価を平均25%引き上げた」ことに対応するため、150ウォンの給料を得ていた通訳要員については翌1960年度から200ウォンに、80ウォンの給料を得ていた運転手については160ウォンにしたい、としている。各職種の無償配給量についても、運転手の場合は夏服生地が年3m、外出用の靴が2年で1足、タオルが年4枚、肉類が月1kg等、非常に詳細な記述がなされている。同館は2008年中に1961年から1965年の文書も公開することになっている。今後も漸次公開するとされており、ますます目が離せない存在となろう。

#### 4. 経路としての中国

中国は、いわゆる「流出内部文書」以外についても、北朝鮮資料を入手するための主要経路として重要である。近年は売れ行きが悪いらしく在庫数が減ったものの、北朝鮮の新刊書は「延辺朝鮮族自治州図書館」内の書店や延吉市中心部、人民路に位置する新華書店、瀋陽ではコリアンタウン西塔の朝鮮文書店でも購入できる。北京では2001年に常備店がなくなった。その他、書店ではないが、中朝友好団体が書籍を通信販売するケースがあるほか、北朝鮮の出版物流通組織である朝鮮出版物交流協会のアジア課職員が中朝間を頻繁に往来している。しかし、彼らが海外に持ち出せる書籍はきわめて限定的であり、在庫網羅性についてはむしろわが国の北朝鮮書専門店のほうに軍配が上がる。

古書は、中朝国境地域で比較的豊富に出回る。延吉の西市場では各種北朝鮮雑貨とともに北朝鮮の古書を散見できるほか、図們にも北朝鮮書籍を扱う古書店がある。北京の有名な骨董品街・潘家

園には肖像徽章（バッジ）、勲章等とともに古書も売られている。

- (1) 同書の朝鮮語版も出ている。『중국에서의 한반도연구』 북경, 민족출판사, 2007년 [『中国における朝鮮半島研究』北京、民族出版社、2007年]。
- (2) 『毎日新聞』2008年5月29日付（夕刊）。
- (3) 「周恩来総理在歓迎朝鮮首相金日成宴会上の講話（草稿）」（档案番号 102-00117-07、1953年1月1日～12月31日）。但し、2008年6月現在、目録上で閲覧可能となっているもの実際には削除されてしまった。
- (4) 「金日成首相訪中接待計画」（档案番号 204-00065-02、

1958年10月30日）。

- (5) 「朝鮮党政代表団情況簡報」（档案番号 204-00492-07、1960年9月12日）。
- (6) 「朝鮮駐華大使崔一大使心臟病住院与治療」（档案番号 105-00796-02、1956年6月1日～7月1日）。
- (7) 「關於朝鮮留學生河殷雨在中國學習的有關情況」（档案番号 106-00031-18、1952年9月11日～12月16日）。
- (8) 「駐朝鮮使館工資標準材料」（档案番号 128-00007-08、1956年4月15日～5月3日）。
- (9) 「駐朝鮮使館調整工資材料」（档案番号 128-00017-05、1959年11月27日～60年1月9日）。